

労働安全衛生・環境保全 活動報告 2014



不二建設株式会社

◇2014年度の当社を取り巻く現状◇

昨年は、
「チャレンジ！ 今のあなたが残りの人生で一番若い」
を経営スローガンに掲げ活動しました。

□労働安全衛生

❖北海道では2014年の全産業の労働災害の死傷者数は対前年比36人(5%)増加しました。一方建設業は-9人(内土木-44人)と減少し、2013年の大幅な増加に一定程度の歯止めが掛かかりました。しかし、死者数は相変わらず全産業の1/3を占め、他産業に比べ依然高い水準であり、事故の型別発生状況も例年同様の順位です。

年齢別死傷者数では全産業・建設業で50歳以上が44~46%(土木52%)となっており、高齢化が全産業に及んでいるとはいえ、建設業(特に土木)の仕事内容を考えると抱える問題は大きいと言えます。

❖このような高齢化は当社も例外ではありませんが、休業4日以上労働災害は発生しませんでした。「見える化」に力を入れて活動に取り組みましたが、十分な取組ができたとは言えず、結果はともかく更に工夫をこらした活動が必要です。

❖健康面では、労働安全衛生法の改正による「ストレスチェックの実施」が2015年12月1日から施行されることになり、人不足等による残業時間の増加もあり社内体制の確立等対応が必要になります。

□環境保全

❖資源の有効活用では、工事受注量の減少を受け全体の使用数量がかなり減りました。特にアスファルト合材は業界全体でも年々減少してきており、年間の生産量が300万トンを超えてきました。合材生産の減少に伴い、年間2~3万トン受入している産業廃棄物のガレキ類を中間処理して生産する再生骨材の使用も減少傾向です。当社でも、地方においては合材生産量の減少により合材工場の経営が厳しくなっているところもあります。

❖当社が工事で使用する建設機械等の燃料の使用量を減らすことによるCO2排出量の削減や「資源の有効活用」により使用する資源のロスを減らすことで、その製造・運搬・施工に係わるCO2排出量の削減に取り組みました。

❖「地域貢献活動」も建設業界全体で取り組んでいます。当社でも多くの営業所・工事で取り組みました。

〜〜労働安全衛生活動〜〜

■労働安全衛生目標■

労働・交通災害

「ヒヤリ・ハットとKYで危険の芽を0にする」

活動の概要

労働災害が発生する場合、その前兆として幾つかの「ヒヤリ」や「ハット」した事象が起きていると言われます。放っておけば労働災害に結び付くそれらの事象を取り除くため以下の活動に取り組みました。

1. 教育活動

<資格教育>

工事で施工の中心的役割を担う職長を養成するための「職長・安全衛生責任者教育」や、現場の作業に必要な「特別教育」の資格を取得しました。特に「特別教育」の資格は、比較的簡単に操作ができそうな機械が対象になっていますが、大きな災害が発生しています。当社の施工協力会を含め、まだ現場が本格的に稼働していない4～5月に外部・内部の講師により実施しました。

4/10-11 参加 23 名(6 社)
「職長・安全衛生責任者教育」



5/7 参加5名(3社)

「刈払機取扱作業者安全衛生教育」



5/8-9 参加3名(1社)

「ローラーの運転の業務に係る特別教育」



<職員に対する教育>

全社員が集まる4月1日の全社大会、5月16日の全社安全衛生環境大会に合わせて、工事グループの職員を対象に勉強会を行いました。

当社が進めているISO14001やOHSAS18001のシステムに基づく教育や、各工事の活動から「ヒヤリハット」や「リスクアセスメント」等の危険の芽を摘む事例等社内平準化への情報共有や安全管理に関するスキルアップの場となっています。



2. 全社安全衛生環境大会

5月16日に協力会社を含め103名の参加で実施しました。

大会では、「安全工事表彰」、「全社安全スローガン」の発表、「安全講話」、そして作年度の反省を踏まえて設定した2014年度の活動目標の達成に向け参加者全員で意思統一を行いました。

社長挨拶



～挨拶の概要～

- ❖「資材、人手、重機」の三つの不足が、建設業界のみならず日本の直面する問題。生き残っていくためには三つの不足克服への取組が必要です。
- ❖会社、現場、協力会社が施工計画の段階から知恵を出し合い、安全管理、工程管理を行うことにより必ず新しい道が開けると確信しています。
- ❖安全・労働衛生活動も慣れや過信を捨てて新たなチャレンジをベテラン・中堅・若手に関係なく常に若々しくみんなでつながる活動をよろしく願います。

安全工事表彰



決意宣言



2014年度の全社安全スローガン

『ヒヤリ』も『ハット』も赤信号！

危険の芽を摘む みんなの目

3. 工事における活動

<施工検討会>

当社では 工事を施工するにあたり、発注者との打合せ後に施工検討会を行い、「工事目標達成計画書」を作成しています。これは、「安全に、環境に優しく、質の良い」工事完成品を作るために、工事の「目的・成果物・制約条件」を明確にした上で現場の諸条件を考慮した「労働安全衛生・環境・品質目標」を設定し、その達成に向けた実施項目を具体化したもので、発注者に提出する「施工計画書」を要約したものです。

工事完成後は、「労働安全衛生・環境・品質目標」の達成度や利益・発注者の評定結果について自己評価を行い「工事目標達成報告書」を作成します。「計画書・報告書」は社内掲示されます。



<施工中の情報アップ>

施工中は随時会社、現場双方から情報がアップされ、より良い工事の完成を目指した取組が行われます。

41 : 中山 次郎 (役員・本部) 2014/7/3(木) 15:43
本日のチェックポイント

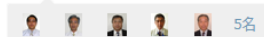
フィニッシャー後ろの侵入防止バリケード

60 : 榎谷 雄大 (道央営業所) 2014/7/31(木) 16:47

18~19線下層路盤の敷均しがほぼ終了し、縁石用の丁張を使って型枠設置準備に入っています。



「いいね!」を取り消す 返信する



いいね! 返信する



<安全パトロール>

各工事の「工事目標達成計画書」に基づく実施項目は、毎月実施する安全パトロールや社内検査で確認します。また、全国的に実施される週間・月間運動に合わせ全社安全パトロールを施工協力会と一緒に実施しています。

安全パトロールの指摘事項（良い事例、悪い事例）、チェックリストは社内に公開し、社内での情報共有と共に改善活動に活用しています。

毎月の安全パトロール



全国安全週間に伴う全社安全パトロール 7月3日

経営体 滝川西地区 第21工区



帯広広尾自動車道
幕別町共栄北5線舗装工事



社内掲示する「労働安全衛生・環境パトロール記録表」

製品内を検索			
トップページ	個人フォルダ	メール	スケジュール
申請・承認	おひげん機示場	社有車・会議室	プロジェクト
報告書	電話メモ(在来)	ToDoリスト	ファイル管理
アドレス帳	社員		
トップページ カスタムアプリ (レポートフォルダ) FUJIMANAGEMENTシステム 労働安全衛生・環境パトロール記録表			
労働安全衛生・環境パトロール記録表 ▲メモを隠す 通用管理			
ログインして使用して下さい			
レコードを登録する 編集する 再利用する 削除する 印刷用画面			
レコードの詳細			
ビュー [安全パトロール] 先頭へ << 前へ 次へ >> 末尾へ			
工期始	2015/2/4		
工期終	2015/3/27		
パトロール実施日	2015/2/26		
工事名	和寒線加内線防炎B(交安)工事外(舗装工)		
現場代理人	福屋 貴弘		
パトロール実施者	後藤 明雄		
協力業者	近藤組7人、名翔警備3人		
主な作業	大型視線誘導標基礎ブロックの設置作業		
稼働機械	0.45BH-2台、0.4タイヤショベル-1台 4Tダンパー-2台、4Tユニック-1台		
パトロール者コメント欄	<p>パトロール時の作業は大型視線誘導標基礎ブロックの設置作業。</p> <ul style="list-style-type: none"> 掘削はBHを使用し、手元作業員の合図により作業が行われていた。 BHオペレーターの資格証を確認。 基礎ブロックの布設は別のBHを用いて行われていた。 基礎砂利、敷砂を施工後、合図者1名、布設手元作業員2名、地上作業員1名、オペレーターの人員にて作業。 資格証(移動式クレーン、玉掛)を確認。 <p>基礎ブロックの設置は30基で、今週土曜日までに完了の予定とのこと。現場は例年にくらべて雪が少なく、パトロール時は比較的暖かく路面は雪が融けている状況でしたが、吊り物作業です。手元足下に十分気をつけて作業に当たって下さい。</p> <p>交通規制は、片側交互通行でしたが、誘導員、安全施設ともに見やすく配置されていました。ただ、降雪等があると視認性が低下しますので、状況に応じた配慮も忘れずをお願いします。</p>		
指摘処置	不要	改善指導書	改善報告書
チェックシート添付ファイル	20150226和寒線加内_(2).pdf (application/pdf) 234 KB	その他添付ファイル	
写真等	パトロール.jpg (image/jpeg) 89 KB 		
全社通知	✔		

4. 管理部門での活動

工事が主体となる取組が多い中、営業・発注者挨拶・工事の社内検査等全道を回ることが多い管理部門では、交通事故防止に対する取組を行いました。例年7月～10月まで実施され全社で取り組んでいるセーフティラリーと結びつけた活動や「安全チェック表」により日々注意喚起を行う活動を実施しました。

また、デスクワーク中心の業務となっていることから、腰痛予防等のラジオ体操や、毎月の血圧測定を実施しました。

5. 緊急事態への対応

本店・本社、各営業所では毎年避難訓練や消火訓練を実施しています。

8月にオホーツク営業所の隣町で宿舍の火災により5人が死亡する災害が発生し、緊急事態がより身近に感じられるようになりました。

滝川本店－消火訓練・油処理訓練



札幌本社
バビル合同避難訓練



オホーツク営業所－避難訓練・消火訓練



札幌開発建設部との協定による
災害対策用機械の操作訓練



【労働安全衛生目標の達成度】

達成度は下表の通りです。

目標	細目	結果	判定	備考
労働・交通災害 (ヒヤリハットと KYで危険の芽を 0にする)	労働災害	1件	✕	
	交通災害	対物 1件 自損 2件	✕	
ライフラインの破損		なし		

◆労働災害

無休災害が1件発生しました。凍結した路面で足を滑らせ、担いでいたガードケーブルの中間支柱と路面の間に指を挟め、左手人差し指を骨折。

北海道労働局では12月に「北海道冬季災害ゼロ てんとう防止運動(1/1~3/31)」を発表し、当社でも災害発生前の2週間前に情報をアップしていました。

また、厚労省も「STOP! 転倒災害プロジェクト2015」(1/20~12/31)を提唱しましたが、これは、全産業で死傷災害の原因が第1位の「転倒」の増加率が高いことによるものです。建設業でも他の原因と比べ増加率が高くなっていますが、作業員が高齢化し身体的な衰えにより高齢者での転倒災害の発生率が20歳台に比べ50歳台では7倍に達する現状を反映しているようです。

◆交通災害

大きな事故はなかったものの、接触事故が1件、自損事故が2発生しました。発生時期はまだ繁忙期ではなく、“不注意”によると判断できるものです。「一歩間違えば」という危機感を持ち、絶えず慎重な運転が求められます。

社内情報には直近の事故例等を発信し、定期的な注意喚起を行っています。また、工事では工事関係者がそれぞれの通勤経路の危険箇所や注意箇所を記載した「交通ヒヤリマップ」を作成し、日々安全運転の注意喚起に活用しています。

※「セーフティラリー北海道2014」では、参加23チーム中完走15チーム(65.2%)と低迷しました。

□ライフライン事故

2014年度はライフラインが絡む工事が少なく1件も発生しませんでした。

～～～環境保全活動～～～

■環境目標■

●CO2 排出量の削減(削減率)

15% (主要機械) 以上

●主要資材のロス削減(ロス率)

合 材 2%以下

路盤材 25%以下

活動の概要

目標に設定した項目はすべて工事に関係するものです。全社的には「産業廃棄物の再利用」や「リングプル」、「キャップ」の収集、地域貢献への取組みを行いました。また、2012年度から施工を開始した「ストリートプリント」は3年目を迎え、多方面に施工を広げました。

1. 産業廃棄物の再利用

2014年度は事業の縮小により長万部の中間処理施設を廃止し、道内3か所（滝川市、雄武町、浦河町）で産業廃棄物（コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊）を2万トン程受入れ、破碎処理して再生骨材を製造しました。再生骨材は、再生合材の製造、路盤材や簡易舗装の材料として使用しています。

しかし、地域での需給状況は大きく異なり、地方では廃材の受入・再生骨材の需要が共に少なくなってきたおり、大量にストックされたままになっている所もあります。

<産業廃棄物（ガレキ類）の中間処理>

2014年度

廃材受入量	19,458t
廃材処理量	21,097t
再生骨材 使用・販売量	23,616t
廃材保管量	22,304t
再生骨材保管量	23,648t

オホーツク営業所(雄武町)廃材堆積場



2. 工事における活動

工事では、資源の有効活用として主要資材である合材（アスファルト混合物）、路盤材、生コンのロス削減を継続して実施しました。これは利益向上と結び付けた活動です。また、建設機械を多数使用することから、主要な建設機械による CO2 排出量の削減も、同じく利益向上と結び付けて取り組みました。

3. 地域貢献活動

本店・本社では、それぞれ「滝川クリーンデイ」、「創成川ボランティアサポートプログラム」に例年取り組んでいます。

滝川本店



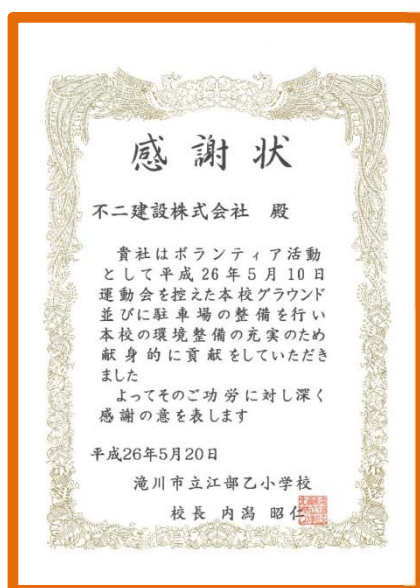
札幌本社



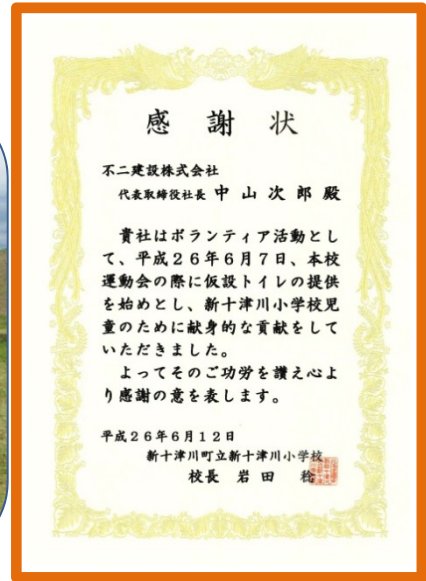
営業所・工事では管轄する地域内で小学校・地区会館・商店街等の公共施設を対象に活動を行っています。小学校で行っているグラウンド整備は、5月末～6月初の運動会に合わせた活動として定着しています。

□ 空知営業所

滝川市立江部乙小学校 ～グラウンド整備～

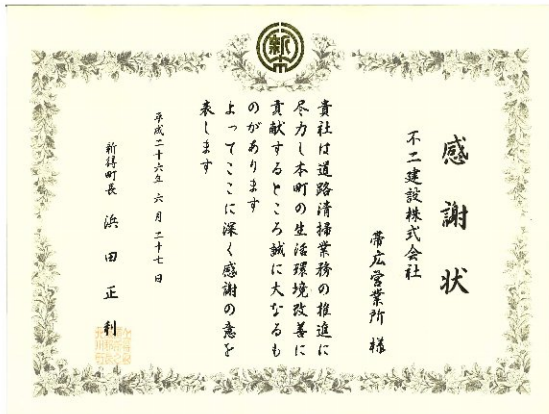


新十津川町立新十津川小学校
～運動会で仮設トイレの提供～



□ 帯広営業所

町道の草取り



□ 北海道横断自動車道
北見市上ところ舗装工事

地区の廃品回収の手伝い



発注者、他工事と協力し、地域の祭りで建設工事をアピール



4. 景観舗装—ストリートプリント

2012年度から、既存のアスファルト舗装を石畳やレンガ敷きのように美しく加工する工法である「ストリートプリント」を施工しています。殺風景な黒い舗装が、石畳やレンガ調になり、また周囲に合わせて着色することで素晴らしい景観を作り出すことができます。

2014年度の実績は10件—648m²、開始からの累計は28件—2,797m²になりました。

最初の施工—2012年度、滝川本店構内



2014年度の施工—入口・玄関前

型押し+着色 による施工



着色のみの施工



公園駐車場(身障者マーク)



道の駅駐車場(分離帯)



道の駅駐車場(歩道)



歩道



【環境目標の達成度】

達成度は下表の通りです。

項目	目標	結果	判定	備考
CO ₂ 排出量の削減	工事で使用する建設機械が排出するCO ₂ を15%削減する	34.1%	○	9 工事
資源の有効活用	主要資材のロスを削減する	合 材 2%以下	○	10 工事
		路盤材 25%以下	✕	3 工事

◆CO₂ 排出量の削減

9 工事で 18.8 t-co₂ を削減し、経済的には約 90 万円位の効果がありました。大型機械の使用や冬期に路面ヒーターを使用する工事で効率的な施工が行われた結果だと思われま。

本店・本社では夏はクールビズ等により冷房の温度調整を実施しCO₂ 排出量削減に取り組んでいますが、近年北海道も異常気象というよりは明らかに温暖化の影響により、特に冷房の使用期間が長くなってきているため削減は難しく、どちらかと言うと増加しているような状況です。

現場では、この影響を受け年々熱中症対策の取組みが強化され、冷房機器の使用が増えることにより結果的にCO₂ 排出量の増加も見られます。

◆資源の有効活用

路盤材は目標を達成できませんでした。資機材の手配や施工条件に左右された面はあるものの、利益にも密接に結びついた目標であり、また資材は、その製造・運搬・敷均し・転圧のすべてに機械が係わり燃料の消費を伴うことでCO₂ の排出に直結しています。環境・利益両方に対する強い問題意識が求められます。

□地域貢献活動

今年度も様々な取り組みを行いました。当社が活動を始めたきっかけに“総合評価方式での評価“がありましたが、長い間活動をする中、地域で果たす建設業の役割への満足感を感じる事が少なからずあります。「建設業が身近な存在であり、やはり必要な存在である」と地域の方々に理解して頂けるような地域貢献活動を、更に意識して行っていくことが必要であると考えています。